

岩手大学工学部 正会員 安藤 昭

1. まえがき

一般に文化景観の環境設計は視覚環境の修景にとどまらず、それらに対する市民のイメージの分析にもとづいた環境の創造まで行われなければならないと考える。特に中核都市における城郭の環境設計を行なう場合には、ほとんどの城址が複雑多岐な利用のされ方をしているわけであるから、この点からの検討がいっそう重要となってくる。本研究では、このような観点からイメージの分析を取り上げている。ここでは盛岡城址公園の建物に関するイメージの構造について述べた。

2. イメージの定義

たいていの複雑な現象の定義がそうであるように、イメージの定義も困難を伴う。イメージは残像、直観像、記憶心像、想像心像の4つに分類されるといわれ、この心像のすべてを説明しうる明確な定義は見出されていない。しかし、本研究で取り扱うものは記憶心像であるので、この点について考察し、次のように定義する。すなわち、記憶心像とは感覚的、知覚的、感情的その他の体験状態が過去にあったものとして認知し、具体的に再生したものすべてを呼ぶこととする。今後本論においては、この記憶心像をイメージと呼ぶこととする。このイメージは単にイメージとして終るものではなく、イメージに対する評価が行われ、この評価を通じて人間の行動を制御するといわれている。この点に注目するがゆえ城址に関するイメージとその構造の分析を行うのである。

3. イメージの現れ方

多くの場合、イメージの現れ方とイメージの対象とは感覚的類似をもっている。すなわち視覚的な物は視覚心像により、聴覚的な物は聴覚心像により代表される。しかし場合によっては全く異なったイメージによって代表されることもある。これが特にある種の感覚に偏している人のことを視覚型とか言語型と呼ばれる。この点をも考慮するならば、再生方法を2つの方法すなわち自由な言語による再生と自由な地図による再生により行うのが望ましいと思われる。ここでは自由な地図による再生により行なった。

4. 調査地域と調査の結果

調査地域は岩手県盛岡市内丸の盛岡城址公園である。当公園の公園区域の略図とイメージに関する調査の結果を図-1、および図-2に示す。なお

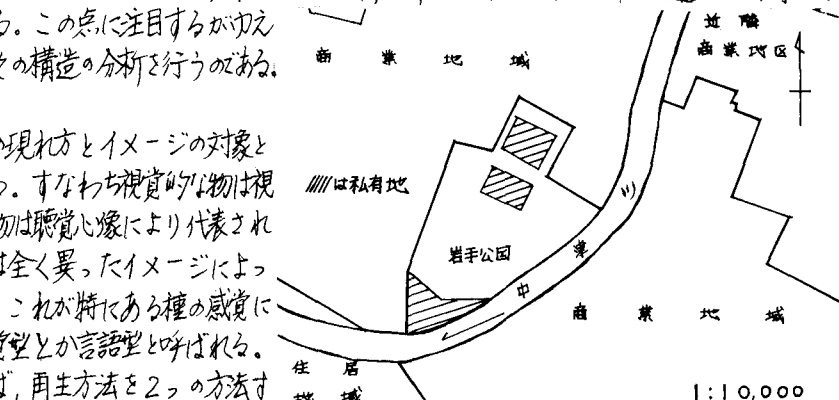


図-1. 盛岡城址公園の公園区域

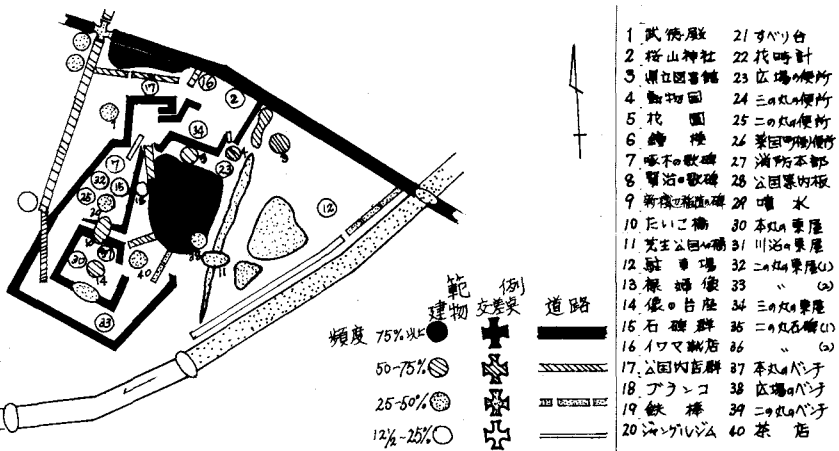


図-2. 盛岡城址公園のイメージマップと調査対象構造物

工学部の年齢20から22歳の男子学生76名である。

本研究ではこれらの調査結果のうち図-2の右表に示された建物として把握されと思われる40個の構造物に関して分析した。

5. イメージの再生に関する仮説

イメージの再生の量は以下に示すような3つの理由の組合せによって決定される³⁾。(1). 建物の物理的形の特異性と強度(2). 目につきやすさの強度(3). 使用頻度と使用特異性, 文化的価値。以上の仮説にもとづきここではイメージの再生に関する要因として9個の要因を取り上げ, バリマックス法を用いて要因の独立性を検討し, 表-1に示される6つの要因と決定した。

6. 数量化理論による分析

再生されたイメージの量と要因の関係を明らかにするためにイメージの再生量と外的基準として表-1に示されたカテゴリー分類にもとづいて要因分析を行なった。この分析結果を図-3に示す。

7. 考察と結論

ク-1. イメージの再生量に対して最も強く影響をおよぼしているのは, 大きさの因子である。なお大きさはバリマックス法による分析結果では, 形(単一複)と材質の要因に高い相関があった。

ク-2. イメージの再生量とほぼ線形的関係にあるのは輪郭と大きさと使用強度の因子である。ただし, 使用強度は正確な資料が無いため近似的な尺度である。

ク-3. 色彩に関しては無彩色の白または灰色と周囲とのコントラストをもつ色でスコアが高くなっている。色に対する嗜好が知られる興味のある結果である。

ク-4. 新しい建物と古い建物でスコアが大きくなり普通のものではスコアが下がっている。なおこの新旧の因子は象徴度の因子と相関があった。

ク-5. 視覚強度の因子はイメージの再生量に関し 図-3. 各要因のカテゴリースコア; 平均スコア22.0で最も影響力の小さな因子であった。当公園の面積は9.7haとそれ規模が小さいためかあるいは主要な道路沿いの意味のない建物のためと思われる。最後に御指導いただいた北海道大学教授五十嵐日出夫先生に謝意を表す。

参考文献

- 1). A. リチャードソン, 鬼沢貞, 滝浦静雄 訳: 心像, 紀伊国屋書店。
- 2). 安藤 昭, 不來方城址のイメージについて, 土木学会第29回年次学術講演会概要集
- 3). ドナルド・アブラヤード: なぜ建物は認知されるか, 環境心理とは何か, 彰国社

番号	カテゴリー
輪郭	C11 境界が不明瞭または欠けた構造物
輪郭	C12 境界が連続している構造物
輪郭	C13 孤立している構造物
大きさ	C21 動物園のふりこを基準として, それより小さい構造物
大きさ	C22 動物園のふりこと同等の大きさの構造物
大きさ	C23 動物園のふりこより大きい構造物
色彩	C31 無彩色の白または灰色の構造物
色彩	C32 彩色された構造物
色彩	C33 周囲とのコントラストをもつ構造物
使用強度	C41 殆んど使用されない構造物
使用強度	C42 普通に使用される構造物
使用強度	C43 頻繁に使用される構造物
視覚強度	C51 公園内道路から見えにくい構造物
視覚強度	C52 公園内道路から見える構造物
視覚強度	C53 大通りから見える構造物
新旧	C61 10年以内に築造された構造物
新旧	C62 10~30年前に築造された構造物
新旧	C63 それ以前に築造された構造物

表-1. 要因とカテゴリーの分類

